

PRESS RELEASE

2017年12月吉日



株式会社サンプラテック
代表取締役 加藤 学司

各位

**iPS細胞を用いた臨床研究で、“複数施設間の細胞ライブ輸送”が実施され、
サンプラテック製ライブ輸送デバイス「iP-TEC®」が使用されました！**

神戸市立医療センター中央市民病院、国立大学法人大阪大学医学部附属病院（以下、大阪大学病院）、国立大学法人京都大学 iPS 細胞研究所、および国立研究開発法人理化学研究所が連携して、平成 29 年 2 月より開始した「滲出型加齢黄斑変性に対する他家 iPS 細胞由来網膜色素上皮（RPE）細胞懸濁液移植に関する臨床研究」において、当社の細胞輸送技術が使用されました。

今回の臨床研究では、細胞は凍結せず生きた状態で輸送しており、移植用細胞を製造する理化学研究所 多細胞システム形成研究センター（以下、理研 CDB）から移植を行う大阪大学病院までの輸送に際しては、温度管理と耐衝撃を達成する為の容器が必要でした。そこで、弊社で開発した「iP-TEC®プレミアム BOX-V8.5」ならびに「iP-TEC®潜熱蓄熱材 24℃、36℃」をベースに改良を施した輸送技術が採用されました。

本件は、第一種再生医療等提供計画において、国内初となる遠方への細胞輸送工程を含んだ移植手術となり、今後の普及実用化への可能性を模索する重要な試みとなりました。

現在、当社は理研 CDB 網膜再生医療研究開発プロジェクトと共同で、網膜色素上皮（RPE）シートを題材に、立体構造を有する細胞製品の輸送方法開発と検証を行っています。この共同研究により開発した輸送資材・容器、および細胞輸送実験の検証結果は、第 17 回日本再生医療学会総会（2018 年 3 月、横浜）にて、同プロジェクトから発表される予定です。



理研 CDB 外観（提供：理化学研究所）



大阪大学病院 外観（提供：大阪大学）

弊社製品を用いての細胞輸送は理研 CDB（出発地点）から大阪大学病院（到着地点）に向けて行われました。



細胞輸送の様子（提供：理化学研究所）

《製品概要》

様々な細胞や生体組織を凍結させずに生きたまま輸送するための容器&デバイス

「iP-TEC®」（アイピーテック）

<http://www.sanplatec.co.jp/ipotec/>



「株式会社サンプラテック」

創業 58 年を迎えるプラスチック製実験機器メーカーのパイオニア。メスシリンダーやビーカーをはじめ 1 万点を超える多彩な商品を展開。ここ数年は、再生医療分野に向けた容器、デバイスの開発に積極的に取り組み、研究者のニーズを独自のアイデアと技術で形にした高付加価値製品を次々と開発しています。

<http://www.sanplatec.co.jp/corp/>

《本件に関するお問合せ》

〒530-0035

大阪府大阪市北区同心 2-1-3

株式会社サンプラテック

[TEL:06-6353-5326](tel:06-6353-5326)

FAX:06-6353-5154

E-mail:ask@sanplatec.co.jp

企画開発部 担当：川崎、辻本